

じてんしゃ
 自転車めんきょ


年 組 ()

「さようなら！」

「また明日ね！」

みんなが急いで帰るなか、ソウヤは、ゆったりと帰りの準備をしていた。家に帰っても、お父さんもお母さんも仕事でいない。おまけに、家の近くには友達も住んでいないものだから、遊び相手もないのだ。だから、早く帰っても仕方がない。

今日も1人で、ゲームでもやろうかな——。

「ソウヤ！ 今日、一緒に遊ばないか？」

後ろから急に声をかけられた。仲良しのケンスケだ。

「もちろん、いいけど。」

「じゃあ、そっちに行くから待っててよ。」

家の近所の公園で待っていると、ケンスケが本当にやってきた。サッカーをしたり、かくれんぼをしたりして、楽しくすごした。ソウヤはうれしかった。友達と遊べるのが、こんなに楽しいなんて。

その日の夜は、ワクワクしながらふとんにもぐった。

ふと、ケンスケが来たときのことを思い出した。

ケンスケは、自転車でやってきていた。でも、この学校で

は、自転車めんきょに合格しなければ、自転車に乗ってはいけない決まりになっている。3年生で合格している人は、まだ



1人もいないはずだ。つまりケンスケは、決まりをやぶってソウヤの家に来ていたのだ。

次の日、学校でケンスケと会った。

ケンスケは笑顔で話しかけてきた。

「昨日は楽しかったな！ 今日の放課後も遊ぼうよ。ソウヤの家は、ちょっと遠いけど、また自転車で行くからさ！」

ソウヤは、どう答えるべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

話し合っ考えたことを書きましょう。
